

青山学院大学
ジェロントロジー研究所年報

第4巻

2021年度

目次

| | |
|----------|----|
| 目次 | 2 |
| 巻頭言 | 3 |
| 講演会 | 4 |
| 平田 普三 | 5 |
| 井上 孝 | 9 |
| 塩澤 友規 | 11 |
| 日置 俊次 | 12 |
| 米山 聡 | 15 |
| 栗原 陽介 | 17 |
| ロペズ ギョーム | 21 |
| 石井 慶子 | 23 |
| 竹下 啓 | 26 |
| 佐野 智子 | 28 |
| 長田 久雄 | 30 |
| 平井 誠 | 31 |
| 井上 希 | 32 |
| 朝倉 匠子 | 34 |
| 大西 典子 | 36 |
| 及川 麻衣子 | 38 |
| 五十嵐 靖博 | 40 |
| 大野 淑子 | 42 |
| 永松 俊哉 | 43 |

巻頭言

パンデミックにありましても、日本の高齢化が歩みを緩めることはありません。ジェロントロジーについて考えるとき、サステナビリティ(持続可能性)を念頭におくことが欠かせませんが、昨今は新型コロナウイルス(COVID-19)との共生も含めたサステナビリティのあり方が問われており、パンデミックはジェロントロジーの主要なテーマになりつつあります。

2018年度にスタートしました青山学院大学ジェロントロジー研究所は4年目に突入り、外部資金を原資に、研究、教育、啓発、広報の4つを主軸とした活動を展開してまいりました。研究としましては、パンデミックを含めてジェロントロジーの新分野を開拓すべく、学際研究を深化させました。教育活動として行っております青山学院大学の授業「ジェロントロジーと諸科学」は高齢者の心身の健康にCOVID-19に関連させて講義した効果から学生の支持を受け、履修者を抽選で選ばなくてはならない人気の授業となりました。啓発活動としましては、講演会をオンサイト+オンラインのハイブリッド形式で開催できましたことが大きな成果であったと自負しています。広報についてもCOVID-19を意識したジェロントロジーの情報発信に努めました。社会の変化に迅速に対応できることはジェロントロジーが学際性が高く、関連領域が多岐にわたることにも関連しており、本研究所はそれを活かして活動の場を広げているとも言えます。ここに2021年度のジェロントロジー研究所の活動報告を公開いたします。本研究所は2022年度もジェロントロジーの研究、教育、啓発、広報に邁進いたします。パンデミックの終わりが見通せる1年となりますことを祈念しております。

ジェロントロジーで国際的リーダーシップを発揮され、本研究所設立時から学際連携にご協力くださいました山野学苑総長山野正義氏が2021年10月にご逝去されましたこと、心よりご冥福をお祈りいたします。

2022年3月

所長 平田 普三

講演会

連続講演会第6回「長寿を測る-生命表とその応用-」

日時：2021年11月7日（日）14:00-16:00

場所：青山学院大学17309大教室（青山キャンパス17号館3階）

講演者：石井 太 氏（慶應義塾大学経済学部・教授）

形式：ハイブリッド（オンサイト+オンライン）

開催報告：<http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/activities/activities-report211107/>



講演会の様子

平田 普三

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_leader/

研究成果の概要

遺伝子発現解析に資する新しいサンプル調整法 Direct-TRI を開発し、熱帯魚ゼブラフィッシュを動物モデルとした老化研究に応用している。抗老化作用があるとされる複数の遺伝子について、それぞれを破壊したゼブラフィッシュを作製すると、いずれも早老して短命で死ぬことが確認され、老化プロセスを効率よく解析する脊椎動物モデルを新しく確立できたと考えている。また、老化の前段階で起こる遺伝子発現の変化を見出しており、外見の変化が現れる前に体の内部で起こる変化をモニターする新しい指標を見出せたと考えている。

学術論文

1. Ogura, Y., Uehara, T., Ujibe, K., Yoshihashi, H., Yamada, M., Suzuki, H., Takenouchi, T., Kosaki, K., and Hirata, H. The p.Thr395Met missense variant of NFIA found in a patient with intellectual disability is a defective variant. *Am. J. Med. Genet.* In press.
2. Ogura, Y., Kaneko, R., Ujibe, K., Wakamatsu, Y. and Hirata, H. Loss of aklotho causes reduced motor ability and short lifespan in zebrafish. *Sci. Rep.* 11: 15090 (2021).
3. Sadamitsu, K., Shigemitsu, L., Suzuki, M., Ito, D., Kashima, M. and Hirata, H. Characterization of zebrafish GABA_A receptor subunits. *Sci. Rep.* 11: 6242 (2021).
4. Ujibe, K., Nishimura, K., Kashima, M. and Hirata, H. Direct-TRI: High-throughput RNA-extracting method for all stages of zebrafish development. *Bio-protocol* 11: e4136 (2021).
5. Kashima, M., Shida, Y., Yamashiro, T., Hirata, H. and Kurosaka, H. Intracellular and intercellular gene regulatory network inference from time-course individual RNA-Seq. *Front. Bioinform.* 1: 777299, 1-12 (2021).
6. Uehara, T., Sanuki, R., Ogura, Y., Yokoyama, A., Yoshida, T., Futagawa, H., Yoshihashi, H., Yamada, M., Suzuki, H., Takenouchi, T., Matsubara, K., Hirata, H., Kosaki, K., Takano-Shimizu, T. Recurrent NFIA K125E substitution represents a loss-of-function allele: Sensitive in vitro and in vivo assays for non-truncating alleles. *Am. J. Med. Genet.* 185A: 2084-2093 (2021).
7. 平田普三。ゼブラフィッシュの運動発達とその可塑性。比較生理生化学。38: 79-86 (2021).
8. 氏部浩太、鹿島誠、平田普三。多検体RNA-Seqを実現する技術：Direct-TRIとLasy-Seq

。細胞。53: 24-25 (2021).

招待講演

9. 平田普三。疾患遺伝子のゼブラフィッシュでの解析。J-RDMMモデル生物コーディネーティングネットワークによる希少・未診断疾患メカニズム解析。オンライン。2021年9月28日。
10. 平田普三。動物が気持ちを変えるとき。県立広島大学生物資源科学部セミナー。県立広島大学（庄原）。2021年11月1日。
11. 平田普三。ゼブラフィッシュを用いた希少・未診断疾患研究。日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業「未診断疾患イニシアチブ（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases (IRUD)) 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究」令和3年度会議。オンライン。2021年12月17日。
12. 平田普三。ゼブラフィッシュでのてんかん関連遺伝子の解析。令和3年度J-RDMM会議。オンライン。2022年3月11日。

学会発表

13. Ujibe, K., Kashima, M. and Hirata, H. Pathological elucidation of Werner syndrome model in zebrafish. 第54回日本発生生物学会大会。オンライン。2021年6月17日。
14. Sadamitsu, K., Kashima, M. and Hirata, H. Physiological analysis of GABAA receptor family in zebrafish. 第54回日本発生生物学会大会。オンライン。2021年6月17日。
15. Komura, R., Kashima, M. and Hirata, H. Single cell RNA-Seq to identify all cell types in the planarian *Dugesia japonica*. 第54回日本発生生物学会大会。オンライン。2021年6月17日。
16. Kashima, M., Nishimura, K. and Hirata, H. Time-course individual RNA-Seq revealed a transcriptomic landscape of environmental sex determination sex determination in zebrafish. 第54回日本発生生物学会大会。オンライン。2021年6月18日。
17. Sadamitsu, K., Kashima, M. and Hirata, H. Physiological analysis of zebrafish GABAA receptor subunits. 第44回日本神経科学大会。神戸国際展示場（神戸）。2021年7月29日。
18. Sanuki, R., Uehara, T., Ogura, Y., Yokoyama, A., Yoshida, T., Futagawa, H., Yoshihashi, H., Yamada, M., Suzuki, H., Takenouchi, T., Matsubara, K., Hirata, H., Kosaki, K., Takano-Shimizu, T. Analysis of functional changes caused by a novel NFIA K125E missense mutation identified from children with developmental delay. 第61回日本先天異常学会学術集会。オンライン。2021年8月7日。
19. Takishima, R., Yamazaki, H., Kashima, M., Muto, A., Kawakami, K. and Hirata, H. Chemical screening of anti-epileptic compounds. 第27回小型魚類研究会。オンライン。2021年9月

- 17日。
20. Ujibe, K., Kashima, M. and Hirata, H. Temporal transcriptome analysis of a Werner progeria model in zebrafish. 第27回小型魚類研究会。オンライン。2021年9月17日。
 21. Sadamitsu, K., Kashima, M. and Hirata, H. Physiological analysis of GABA_A receptor subunits. 第27回小型魚類研究会。オンライン。2021年9月17日。
 22. Kashima, M., Shida, Y., Yamashiro, T., Hirata, H and Kurosaka, H. 経時一個体RNA-Seqを用いた細胞内及び細胞間制御ネットワーク推定。2021年日本バイオインフォマティクス学会年会・第10回生命医薬情報学連合大会。オンライン。2021年9月27日。
 23. 保坂美朋、鹿島誠、平田普三。時系列1個体 RNA-Seq で見るプラナリアの再生過程。バイオDXの最前線 - JST戦略的創造研究推進事業 CREST「データ駆動・AI駆動を中心としたデジタルトランスフォーメーションによる生命科学研究の革新」キックオフシンポジウム。オンライン。2021年11月21日。
 24. 鹿島誠、河村嶺、保坂美朋、平田普三。シングルセルRNA-Seqによるプラナリア *Dugesia japonica* の主要細胞種遺伝子発現カタログ作成とその利用例。第44回日本分子生物学会年会。パシフィコ横浜（横浜）。2021年12月1日。
 25. 氏部浩太、鹿島誠、平田普三。ゼブラフィッシュにおけるウェルナー症候群モデルの病態解明。第44回日本分子生物学会年会。パシフィコ横浜（横浜）。2021年12月1日。
 26. 貞光謙一郎、鹿島誠、平田普三。GABA_A受容体subunitの生理特性解析。第44回日本分子生物学会年会。パシフィコ横浜（横浜）。2021年12月3日。
 27. 保坂美朋、鹿島誠、平田普三。経時一個体RNA-Seq に基づくプラナリアの再生過程における網羅的ステージング。第44回日本分子生物学会年会。パシフィコ横浜（横浜）。2021年12月3日。
 28. 金子遼司、小倉有里絵、氏部浩太、若松勇真、平田普三。αKlotho を欠くゼブラフィッシュの急速な老化的虚弱。第7回ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会。シンポジウムアテクノロジー響ホール伊勢（伊勢）。2021年12月3日。
 29. Kaneko, R., Ogura, Y., Ujibe, K., Wakamatsu Y. and Hirata, H. Loss of alpha-klotho causes adult-onset motor deterioration and short lifespan in zebrafish. 日本比較生理生化学会第43回大会。オンライン。2021年12月5日。
 30. 安西美玖、鹿島誠、平田普三。GlycineにもGABAにも応答する受容体の探索。日本動物学会関東支部第74回大会。オンライン。2022年3月5日。
 31. 鹿島瞳、鹿島誠、平田普三。ゼブラフィッシュの性決定遺伝子候補の探索。日本動物学会関東支部第74回大会。オンライン。2022年3月5日。
 32. 手塚剛史、松尾卓哉、貞光謙一郎、鹿島誠、平田普三。運動異常を示す変異体のスクリーニングおよび原因遺伝子の同定。日本動物学会関東支部第74回大会。オンライン。2022年3月5日。

33. 保坂美朋、鹿島誠、平田普三。プラナリアの再生過程の時系列一遺伝子RNA-Seq解析。日本動物学会関東支部第74回大会。オンライン。2022年3月5日。
34. 山崎裕之、滝嶋遼、鹿島誠、武藤彩、川上浩一、平田普三。抗てんかん薬の効果のカルシウムイメージングによる検証。日本動物学会関東支部第74回大会。オンライン。2022年3月5日。
35. 氏部浩太、鹿島誠、平田普三。ゼブラフィッシュにおけるウェルナー症候群モデル解析。日本動物学会関東支部第74回大会。オンライン。2022年3月5日。
36. 貞光謙一郎、鹿島誠、平田普三。Zebrafish GABA_ARの受容体特性評価。日本動物学会関東支部第74回大会。オンライン。2022年3月5日。
37. 望月菜央、鹿島誠、平田普三。脱リン酸化酵素によるグリシン受容体と足場タンパク質ゲフィリンに結合評価。日本動物学会関東支部第74回大会。オンライン。2022年3月5日。

受賞

38. 平田普三。学校法人青山学院・青山学院学術賞。2021年11月16日。

社会活動・学外の委員活動等

39. Hirata, H. International Zebrafish Conference (IZFC17) Organizer. 2021年9月～
40. Hirata, H. Genes Editorial Board. 2020年9月～
41. Hirata, H. Frontiers in Molecular Neuroscience Associate Editor. 2020年7月～
42. 平田普三。文部科学省主催サイエンス・インカレ審査委員。2019年9月～
43. Hirata, H. Scientific Reports Editorial Board. 2019年7月～
44. 平田普三。日本生化学会評議員。2018年9月～
45. 平田普三。公私立大学実験動物施設協議会代議員。2017年4月～
46. 平田普三。ナショナルバイオリソースプロジェクト（ゼブラフィッシュ）運営委員長。2017年4月～
47. 平田普三。ナショナルバイオリソースプロジェクト（ゼブラフィッシュ）運営委員。2010年9月～
48. Hirata, H. Journal of Biological Chemistry (JBC) Editorial Board Member. 2016年7月～

井上 孝

所属：青山学院大学経済学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_1/

研究成果の概要

今年度を実施した主要な研究活動は以下のとおりである。第一には、2020年度に採択された日本学術振興会の科研費（基盤研究（B））「アジア太平洋地域の小地域別将来人口推計に関するウェブマッピングシステムの構築」に関する一連の研究である。そのうち主なものは、人口分野の世界最大級のデータベースである IPUMS の紹介記事の連載を継続したこと（以下の2～6）、および、全米を対象とする小地域別将来人口推計のウェブサイトの公開準備を進めたことである。後者は2022年3月に公開できる見通しとなった。第二には、人口学研究会のプロジェクト「自然災害と人口」の成果を編著としてまとめたことである（以下の1）。このプロジェクトは足かけ6年にも及ぶ長期プロジェクトであったが、その成果が結実したことは感慨深い。第三には、2008年以降の人口減少時代における、日本の人口関係の文献を総合的にレビューする研究プロジェクトである。このプロジェクトも足かけ3年くらいの長期に及んだが、それを海外の権威あるジャーナルに掲載することができた（以下の7）。レビューした文献の多くは日本語で書かれたものであるため、それを世界に向けて発信できた意義は大きいと考える。

学術論文・著書・分担執筆

1. 井上 孝・和田光平 編著，2021，『人口学ライブラリー20 自然災害と人口』原書房，255p.
2. 井上 希・小池司朗・井上 孝，2021，人口等のマイクロデータに関するWebデータベースIPUMSについて（第2回）—IPUMS USAの概要—。『ESTRELA』，第326号，pp.48-51.
3. 井上 希・小池司朗・井上 孝，2021，人口等のマイクロデータに関するWebデータベースIPUMSについて（第3回）—IPUMS CPSの概要—。『ESTRELA』，第328号，pp.48-51.
4. 井上 希・小池司朗・井上 孝，2021，人口等のマイクロデータに関するWebデータベースIPUMSについて（第4回）—IPUMS Internationalの概要—。『ESTRELA』，第330号，pp.48-51.
5. 井上 希・小池司朗・井上 孝，2021，人口等のマイクロデータに関するWebデータベースIPUMSについて（第5回）—IPUMS GLOBAL HEALTH(DHS)の概要—。『ESTRELA』，第332号，pp.48-51.

6. 井上 希・小池司朗・井上 孝, 2022, 人口等のマイクロデータに関するWebデータベースIPUMSについて(第6回)—IPUMS GLOBAL HEALTH(IPUMS-PMA)の概要—。『ESTRELA』, 第334号, pp.44-47.
7. Inoue, T., Koike, S., Yamauchi, M., and Ishikawa, Y., 2021, Exploring the impact of depopulation on a country's population geography: Lessons learned from Japan. *Population, Space and Place*, e2543. <https://doi.org/10.1002/psp.2543>

シンポジウム・講演・学会発表

8. Inoue, N. and Inoue, T., An Evaluation of the Risk of Becoming Uninhabited at the Small Area Scale by Logit Models: Using Projected Population of Japan. Population Association of America 2021 Annual Meeting (online). 2021年5月6日発表
9. Inoue, T. and Inoue, N., Future Prospects of Population Aging in Japan: A Cluster Analysis Using Small Area Population Projection Data. 34th International Geographical Congress (online). 2021年8月16日発表
10. 井上 希・井上 孝, 東京西郊の私鉄沿線における駅勢圏別人口変動—2015～2065年を対象に—. 2021年度日本人口学会第1回東日本地域部会. 札幌市立大学サテライトキャンパス. 2021年12月5日発表

社会活動・学外の委員活動等

11. 国立社会保障・人口問題研究所研究評価委員
12. 国立社会保障・人口問題研究所「第8回人口移動調査プロジェクト」委員
13. 人口学研究会理事
14. 国際人口地理学会議東京大会組織委員会副委員長

その他

15. (書評) 井上 孝, 2022, 山口泰史著『若者の就職移動と居住地選択—都会志向と地元定着—』古今書院, 地理学評論, 第95巻, 第1号, pp.89-90.
16. 「全国小地域別将来人口推計システム」日本語版 (<http://arcg.is/1LqC6qN>) Ver.3.0公開中
17. The Web System of Small Area Population Projections for the Whole Japan (<http://arcg.is/1GkdZTX>) Ver.3.0公開中
18. The Web Mapping System of Small Area Population Projections for the State of Washington (<http://arcg.is/2s5i2Vvk>) Ver.1.0公開中
19. The Web Mapping System of Small Area Population Projections for Taiwan (<http://arcg.is/1rCPmm>) Ver.1.0公開中

塩澤 友規

所属：青山学院大学経営学部・教授

経歴等：<https://raweb1.jm.aoyama.ac.jp/aguhp/KgApp?kyoinId=ymiigsodggy>

研究成果の概要

高齢者リハビリテーションに有用なバイオフィードバックシステムを用いた筋肉トレーニングに関する研究の一環で、Springer Nature からの依頼原稿、書籍「Bio-information for Hygiene」内の第7章「Electromyography and Performance.」を執筆担当し、掲載された。これは、バイオフィードバックトレーニングを用いた筋パフォーマンス向上トレーニングに関する著者らのこれまでの永年の業績（主に欧文誌への掲載論文）をまとめたものである。

大学教職員に関する睡眠実態調査に関する研究成果について、全国大学保健管理研究集会にて発表した。この発表については、学会賞を受賞、論稿依頼を受けた論文が掲載された。その他、高齢者医療制度等を含む社会医学系に関する医師国家試験問題解説書を執筆した。その他、各種学会役員（下記）を担当した。

学術論文・著書・分担執筆

1. 塩澤友規 他. In: 医師国家試験問題解説書編集委員会 編. 国試 116－第 116 回医師国家試験問題解説書. 東京: TECOM; in press, 2022.
2. 大里貴子, 稲垣 中, 五味慎太郎, 塩澤友規, 小菌康範, 松本さゆり, 松本由佳, 数野香苗, 丸山由衣, 松廣 綾. 本学教職員の睡眠に関する実態調査. CAMPUS HEALTH 58(2), 240-247, 2021.7.
3. Shiozawa T and Takada H. Electromyography and Performance. Bio-information for Hygiene. Springer Nature Singapore. 69-79, 2021.4.
4. 塩澤友規 他. In: 医師国家試験問題解説書編集委員会. 国試 115－第 115回医師国家試験問題解説書. 東京: TECOM; 2021.4.
5. 数野香苗, 稲垣 中, 大里貴子, 阿部和子, 松本さゆり, 松本由佳, 菅原宏美, 丸山由衣, 本木千春, 松廣 綾, 塩澤友規, 小菌康範, 五味慎太郎. HIV/AIDS・性教育に関する普及啓発イベントの試み(第 2 報). CAMPUS HEALTH 58, 195-197, 2021.

学会発表

6. 松本さゆり, 稲垣 中, 阿部和子, 大里貴子, 松本由佳, 数野香苗, 丸山由衣, 松廣綾, 塩澤友規, 小菌康範, 五味慎太郎: 大学生の新型コロナウイルス感染症対策に関する意識と行動. 第 59回全国大学保健管理研究集会 (広島大学: オンライン). 2021

年10月6日.

7. 松本さゆり, 稲垣 中, 阿部和子, 大里貴子, 松本由佳, 数野香苗, 丸山由衣, 松廣綾, 塩澤友規, 小菌康範, 五味慎太郎. 新型コロナウイルスが大学生に及ぼす心理的影響について. 第 59回全国大学保健管理研究集会 (広島大学: オンライン). 2021年10月6日.

主な社会活動・学外の委員活動等

8. 日本認知症学会認定認知症専門医・指導医
9. 日本栓子検出と治療学会理事
10. 日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
11. 日本内科学会認定総合内科専門医
12. 日本内科学会認定内科医
13. 日本公衆衛生学会認定公衆衛生専門家
14. 社会医学系専門医協会認定社会医学系専門医・指導医
15. 形の科学会運営委員 (理事・事務局長)
16. 日本時間生物学会評議員
17. 欧文誌Environmental and Preventive Medicine 他査読委員
18. 日本宇宙航空環境医学会評議員

日置 俊次

所属：青山学院大学文学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_2/

研究成果の概要

今年は留学生の博士論文審査に時間を割いたため、例年より研究成果は少ない。またコロナ禍のため、高齢者の皆さんと短歌の活動をするにあたって、実際に触れあえる場が限られた。講演や学会発表等も特になく、メディア出演もなかった。しかしそのような状況でも、メールや ZOOM などを活用して連絡を取り合い、短歌創作活動を継続することができた。雑誌は毎月発行され、割付・校正などの作業もオンラインで分担している。これもまた新しい経験として将来に生かす要素が見いだせる。

一方で、歌物語（小説）や歌集を 4 冊出版した。小説の中では、高齢者が知恵の宝箱として活躍している。歌会の高齢者に著書を謹呈して、感想ももらい、高齢者の視点を大切にして研究を続けている。日置研究室という発行所を設け、自分で編集・デザインして自由に自分の本を出版できるようにした。今後も発信を続けていく予定である。

論文等

1. 「芥川龍之介「羅生門」の起源——「羅生門の鬼」伝説をめぐって」（『青山学院大学文学部紀要』2022・03）
2. 「芥川龍之介「地獄変」論——ジャンヌ・ダルクとの関わり——」（『青山語文』2022・03）
3. 短歌作品「糸でんわ」（『短歌研究』2021・04）

単行本

4. 小説『エメラルドの夜』はるかぜ書房、2021・04
5. 小説『サファイアの夜明け』日置研究室、2021・08
6. 歌集『おまへに悪かつた』日置研究室、2021・12
7. 歌集『ウーシャントクター』日置研究室、2022・03

社会活動・学外の委員活動等

歌誌「かりん」の編集委員として、ボランティアで毎月雑誌を発行している。会員には高齢者が多く、選歌や編集作業の中で、高齢者の生活や悩みに触れることが多い。高齢者を対象とする短歌教室「表参道歌会」、同じく「かぐや会歌会」を継続している。

その他

大学院博士課程に在籍する留学生の博士論文執筆を指導し、今年度審査に入った。主査を務めた。コロナ禍で、いろいろ大変であった。何度も書き直しを指導し、原稿用紙換算で千枚にわたる論文のすべての日本語をチェックするなど、今年、最も時間と労力をかけた。

米山 聡

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_6/

研究成果の概要

画像相関法を用いてひずみを測定する際にレンズの絞り値すなわち分解能が測定結果に与える影響を評価した。このような測定誤差の評価の際には真値が不明であるためシミュレーションが用いられることが多いが、この場合は種々のレンズ収差の影響を考慮できない。そこで実際の測定データを利用して、絞り値により変化する光学系の分解能が画像相関法の測定精度に与える影響を評価する方法を提案した。実際の測定データでは真値が不明であるため誤差の評価が困難であるが、画像相関法ではかたよりはサブピクセル変位の値に依存し真値の正負に同じように分布するという特性を利用し、測定の対象を剛体回転変位とすることで真値を推定した。測定結果に含まれるかたよりは画像にガウシアンフィルタを適用することやデフォーカスにより低減することが知られているが、このフィルタによる効果やばらつきへの影響を明らかにした。この成果は肌のひずみ測定を含む種々の研究へ応用できる。

学術論文・著書・分担執筆等

1. Sawamura, Y., Yamazaki, Y., Yoneyama, S. and Koyanagi, J., Multi-scale Numerical Simulation of Impact Failure for Cylindrical CFRP, *Advanced Composite Materials*, 30(1), 19–38 (2021).
2. Kanai, Y., Arikawa, S., Fujimoto, Y., Takeo, K., Zhang, Y. and Yoneyama, S., Identifying the Coefficients of Thermal Expansion of Electronic Device Composed of Various Materials Using the Virtual Fields Method, *Measurement Science and Technology*, 32(7), 074003 (2021).
3. Toyama, N., Zhang, Y., Yoneyama, S., Kuwabara, S. and Takano, H., Estimating Stresses Generated in Silicon Wafer from Measured Deflection Distribution, *Advanced Experimental Mechanics*, 6, 33–38 (2021).
4. 米山 聡, 飯塚啓輔, 光学系の分解能が画像相関法の測定結果に与える影響, *実験力学*, 21(4), 294–300 (2021).
5. 米山 聡, 画像相関法 (DIC) を用いたプラスチックのひずみ測定, *強化プラスチック*, 67(9), 357–363 (2021).
6. 米山 聡, デジタル画像相関法による測定の基礎と評価法, *機械設計*, 65(12), 26–29 (2021).

7. 米山 聡, 画像相関法を用いた変位・ひずみ測定手順, 実験力学, 21(4), 287-293 (2021).

学会発表

8. Fuchigami, A., Yoneyama, S., Goto, K. and Ishimura, K., Evaluation of Thermal Deformation of Fastening Structure of Carbon Fiber Reinforced Plastic and Aluminum Using Stereo Image Correlation, SEM 2021 Annual Conference and Exposition on Experimental Mechanics, #11632 (Online, June 14-18, 2021).
9. Fujii, K., Yoneyama, S., Suzuki, A. and Yamada, H., A Method for Measuring Displacement and Strain Around a Crack of Rubber Sheets Using Digital Image Correlation, SEM 2021 Annual Conference and Exposition on Experimental Mechanics, #11627 (Online, June 14-18, 2021).
10. Mitamura, H., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Evaluating the Effect of the Filler Amount on the Crack Growth Behavior of Rubber and the Strain Distribution in the Vicinity of a Crack, BSSM 15th International Conference on Advances in Experimental Mechanics (Online, September 8-9, 2021).
11. Nakao, R., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Investigation of Fracture Behavior of 3D Printed Materials with Various Interlaminar Strengths, 17th Japan International SAMPE Symposium and Exhibition, #S05 (Tokyo, December 1-3, 2021).

社会活動・学外の委員活動等

12. 自転車産業振興協会新商品・新技術研究開発委員会 委員長
13. 相模原市中小企業研究開発補助金 外部専門家
14. Experimental Mechanics, Associate Technical Editor
15. Strain, Editorial Board
16. Journal of Strain Analysis for Engineering Design, Editorial Board
17. 日本機械学会学術誌 エディタ

栗原 陽介

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_7/

研究成果の概要

これまで開発に取り組んできた無拘束で脈波、呼吸を計測できるシステムをベースとした睡眠時の無呼吸状態や、慢性閉塞性肺疾患等を評価するための呼吸機能評価システムの開発を行った。提案システムでは、呼吸時における横隔膜を動かす力を入力、呼気流量を出力とする呼気流量モデルを構築し、環境設置型センサであるエアマットレスによって取得される肺の変位にたいしモデルに基づくソフトセンサを適用することにより呼気流量を推定し呼吸評価を行う。また、在宅リハビリテーション支援のための体幹制御連節モデルによる FIM 値推定手法の開発にも取り組んだ。本手法では、在宅環境においてリハビリテーション中の患者の FIM 値を、ベッドに仰向けで寝た状態から端座位への姿勢変化する際の体幹の回転運動にたいし体幹制御連節モデルを適用することで得られるパラメータから推定する。

学術論文

1. T. Yoshida, Y. Hamada, Y. Kurihara, K. Kobayashi, K. Suzuki, and, K. Watanabe, “Visualization of Microvibrations by Mechanical Frequency Tuner,” *IEEE Sensors Journal* (In press)
2. T. Hirota, Y. Hamada, T. Kaburagi and Y. Kurihara, “Estimation of Functional Independence Measure Motor Score Based on a Trunk Control Model,” *International Journal of Affective Engineering*, vol.21, no.2 (2022)
3. M. Kohama, Y. Hamada, T. Kaburagi, Y. Kurihara, “Classification of Unconstrained Respiratory States Utilising Multidimensional Probability Distribution Based on Respiratory Frequency Information at Each Time Step,” *International Journal of Affective Engineering*, vol.21, no.2 (2022)
4. T. Yoshida, Y. Hamada, Y. Kurihara, K. Kobayashi, K. Suzuki, and, K. Watanabe, “Visualization of Mechanical Microvibration and Machine Diagnosis,” *IEEE Sensors journal*, vol.21, no.20, pp. 23460-23470 (Oct. 2021)
5. K. Nishio, T. Kaburagi, Y. Hamada and Y. Kurihara, “Development of a Bed-Based Unconstrained Cardiac Auscultation Method,” *IEEE Sensors Letters*, vol. 5, no. 8, pp. 1-4, Art no. 6001704 , (Aug. 2021)

学会発表

6. M. Kohama, Y. Hamada, T. Kaburagi, Y. Kurihara, “Unconstrained Respiration States Classification by Detecting Respiratory Cycle Using Autocorrelation,” Proceedings of the 7th International Symposium on Affective Science and Engineering, 8A-01 (2021)
7. T. Hirota, Y. Hamada, T. Kaburagi and Y. Kurihara, “Functional Independence Measure Motor Score Estimation Method Considering Instability of Movement,” the 7th International Symposium on Affective Science and Engineering (2021)
8. R. Sato, Y. Hamada, T. Kaburagi and Y. Kurihara “Evaluation of the Effect of Light Source Spectrum on the Estimation Accuracy of High Dimensional Spectral Images Using Neural Networks Based on RGB Images” The SICE Annual Conference 2021 (2021)
9. T. Hirota, Y. Hamada, T. Kaburagi and Y. Kurihara, “Estimation of Functional Independence Measure Using Frequency Domain Feature,” The SICE Annual Conference 2021 (2021)
10. 合田隼平, 浜田百合, 栗原陽介, “ウルトラディアンリズムのダイナミクスを考慮した就寝時無拘束血圧推定法の提案,” 第17回日本感性工学会春季大会 (2022年3月25日～26日発表予定)
11. 安部遼太郎, 広田卓, 浜田百合, 栗原陽介, “在宅リハビリテーション支援のための体幹制御連節モデルによるFIM値推定手法の提案,” 第17回日本感性工学会春季大会 (2022年3月25日～26日発表予定)
12. 江本光希, 小濱美咲, 浜田百合, 栗原陽介, “慢性閉塞性肺疾患診断のための無拘束呼気流量推定によるGaensler1秒率推定手法の提案,” 第17回日本感性工学会春季大会 (2022年3月25日～26日発表予定)
13. 高橋恵斗, 浜田百合, 栗原陽介, “共感覚刺激を利用した教育支援のための脳活動共感覚刺激特性マップの構築,” 第17回日本感性工学会春季大会 (2022年3月25日～26日発表予定)
14. 丸山昂史, 浜田百合, 栗原陽介, “状態不安にともなう脳活性相互依存ネットワークモデルの構築およびSTAIスコアの推定,” 第17回日本感性工学会春季大会 (2022年3月25日～26日発表予定)
15. 小泉敦暉, 小濱美咲, 浜田百合, 栗原陽介, “頤舌骨筋筋力, 食道開口モデルおよび嚥下音を用いた摂取水分量推定システムの開発,” 2022年電子情報通信学会総合大会 (2022年3月15日～18日発表予定)
16. 塩田崇真, 広田卓, 浜田百合, 栗原陽介, “ガウス過程回帰を用いた飲水時誤差補正による排尿時刻予測手法の提案,” 2022年電子情報通信学会総合大会 (2022年3月15日～18日発表予定)
17. 茂木直人, 佐藤遼史, 浜田百合, 栗原陽介, “RGB 画像に基づく多階層型高次元分光画像推定システムの構築,” 2022年電子情報通信学会総合大会 (2022年3月15日～

18日発表予定)

18. 高橋紗弥, 小濱美咲, 浜田百合, 栗原陽介, “無呼吸信号との二乗平均平方誤差に基づく多次元確率分布を用いた無呼吸状態の無拘束推定手法,” 情報処理学会 第84回全国大会 (2022年3月3日～5日発表予定)
19. 長谷川孝太郎, 浜田百合, 栗原陽介, “脳血流量に基づく共感性伝播ネットワークの構築による共感性推定手法の提案,” 情報処理学会 第84回全国大会 (2022年3月3日～5日発表予定)
20. 佐藤遼史, 高尾郁也, 浜田百合, 鎗木崇史, 栗原陽介, “RGB画像に基づく高次元分光画像推定のための次元拡張アルゴリズムの提案 —農作業者の高齢化に伴う収穫時期予測システムの構築—,” 第100回モバイルコンピューティングと新社会システム・第71回ユビキタスコンピューティングシステム・第32回コンシューマ・デバイス&システム・第21回高齢社会デザイン合同研究発表会 (2021)
21. 佐藤遼史, 高尾郁也, 浜田百合, 鎗木崇史, 栗原陽介, “RGBおよびHSV色空間に基づく高次元分光画像生成のためのAutoencoderを用いたソフト疑似プリズムの開発,” 第20回情報科学技術フォーラム (2021)
22. 広田卓, 村田亮介, 浜田百合, 栗原陽介, “オートエンコーダを用いた吸光スペクトルの特徴量選択における排尿間隔予測,” 第20回情報科学技術フォーラム (2021)
23. 小濱美咲, 浜田百合, 鎗木崇史, 栗原陽介, “呼吸・脈波信号の周期性にもとづく6次元正規分布における睡眠時無呼吸状態推定手法,” 第20回情報科学技術フォーラム (2021)
24. 浜田百合, 鎗木崇史, 栗原陽介, “知的作業時における脳血流量の時間変動と局在特性を考慮した課題判別手法の提案-色彩環境の違いにおける課題判別結果の検証-,” 第22回日本感性工学会大会 (2021)

受賞

25. FIT奨励賞

佐藤遼史, 高尾郁也, 浜田百合, 鎗木崇史, 栗原陽介, “RGBおよびHSV色空間に基づく高次元分光画像生成のためのAutoencoderを用いたソフト疑似プリズムの開発,” 第20回情報科学技術フォーラム,

26. The ISASE Presentation Encouragement Award

T. Hirota, Y. Hamada, T. Kaburagi and Y. Kurihara, “Functional Independence Measure Motor Score Estimation Method Considering Instability of Movement,” the 7th International Symposium on Affective Science and Engineering (2021)

学外の委員活動等

27. SICEオープンライフデータ技術専門委員会委員

28. 日本知能情報ファジィ学会知的制御研究部会幹事

ロペズ ギョーム

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_8/

研究成果の概要

高齢者の健康・快適な生活を支える情報技術（IT）として貢献が期待できるセンシング技術、情報処理技術とそれを活用するアプリケーションソフトウェア技術の研究開発を行った。今年度から、食習慣支援技術の他に、熱中症対策技術に関して取り組んだ。

食習慣支援技術に関して、自然な食事環境において、骨伝導マイクロフォンを用いて食事行動を判別し、咀嚼の改善を促進するアプリを開発した。また、咀嚼意識改善への効果も示した。

熱中症対策技術に関して、様々な暑熱環境下で、安静タスク、デスクワークタスクおよび、運動タスクにおいて、生体情報を計測し、環境の快適さレベルを自動推定するモデルを検証した。その結果、心拍変動情報を用いれば、環境快適性を普通、少し暖かい、温かい、暑い の4段階を9割以上の精度で自動推定が可能であると分かった、

学術論文

1. Nkurikiyeyezu K., Kamachi H., Kondo T., Jain A., Yokokubo A., Lopez G. "Classification of Eating Behaviors in Unconstrained Environments," *Communications in Computer and Information Science*, 1400. Springer, Cham. (2021). doi:10.1007/978-3-030-72379-8_29

分担執筆等

2. ロペズ ギョーム, "ウェアラブルセンサとIoTデバイスで支える健康的な食習慣の試み," 『人間情報学 快適を科学する』, 近代科学社Digital出版, 板生 清 (監修), 人間情報学会(編集), pp. 69-72. 2021年12月24日発行. ISBN: 978-4764960299
3. ロペズ ギョーム, "ウェアラブルセンサからの推定による快適化制御の実現," 『人間情報学 快適を科学する』, 近代科学社Digital出版, 板生 清 (監修), 人間情報学会(編集), pp. 200-204. 2021年12月24日発行. ISBN: 978-4764960299

国際会議プロシーディング

4. Wei Chen, Haruka Kamachi, Anna Yokokubo and Guillaume Lopez, "Bone Conduction Eating Activity Detection based on YAMNet Transfer Learning and LSTM Networks," the 15th International Conference on Bio-inspired Systems and Signal Processing (BIOSIGNALS 2022) (9-11.2.2022). (Full paper) [Best Student Paper Award]

5. Haruka Kamachi, Tahera Hossain, Fuyuka Tokuyama, Anna Yokokubo, Guillaume Lopez, "Prediction of Eating Activity using Smartwatch," 9th International Workshop on Human Activity Sensing Corpus and its Application (HASCA 2021), in conjunction with UbiComp 2021 (25.9.2021).
6. Haruka Kamachi, Takumi Kondo, Tahera Hossain, Anna Yokokubo, Guillaume Lopez, "Automatic Segmentation Method of Bone Conduction Sound for Eating Activity Detailed Detection," 9th International Workshop on Human Activity Sensing Corpus and its Application (HASCA 2021), in conjunction with UbiComp 2021 (25.9.2021).

シンポジウム・講演・学会発表

7. 川崎勇佑, Tahera Hossain, Kizito Nkurikiyeyezu, 横窪安奈, Guillaume Lopez: 生体信号を用いた温熱快適性の推定, 第40回人間情報学会講演会-オーラルセッション (Dec. 2021).
8. 陳維, 蒲池遥, 横窪安奈, Guillaume Lopez: YAMNet転移学習を用いた骨伝導音による食事行動認識, 第40回人間情報学会講演会-オーラルセッション (Dec. 2021).
9. 元川 錦, 横窪 安奈, ロペズ ギョーム: コースター駆動型水分補給促進システム, エンタテインメントコンピューティングシンポジウム論文集, 2021-EC-61(5):38-44 (2021-08-23).
10. 近藤 匠海, 蒲地 遥, 横窪 安奈, ロペズ ギョーム: 骨伝導音を用いた自動セグメンテーションによる 食事行動検出手法の提案, マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO2021) シンポジウム論文集, pp. (Jun. 2021). (ヤングリサーチャー賞)
11. 元川 錦, 横窪 安奈, ロペズ ギョーム: HydReminder:ホルダー駆動型水分補給促進システム, 研究報告エンタテインメントコンピューティング (EC) , 2021-EC-60(4):1-5 (2021-05-25).(Most Discussed Presentation Award)

社会活動・学外の委員活動等

12. 人間情報学会 理事幹事
13. 情報処理学会 IoT行動変容学研究グループ 発起人代表

石井 慶子

所属：青山学院大学理工学部・助教

経歴等：<https://sites.google.com/view/keiko-ishii/resume?authuser=0>

研究成果の概要

新型コロナウイルスの流行に伴い、感染予防の知見を得る必要があったため、共同研究で呼気可視化計測を行った結果について、日本語媒体での発信を行った。

生体侵襲性の低いがん治療法としてハイパーサーミアが期待されている。磁気温熱療法は、磁性ナノ粒子を患部に吸着させ高周波磁場を印加することでがんの治療を測るものであるが、発熱特性の詳細や、メカニズムは明らかになっていない。生体模擬寒天ファントム内に磁性ナノ粒子を混ぜ、発熱特性の調査を行った。

自励振動ヒートパイプ内部流動について、流れ場と温度の同時計測を行った。

磁性流体マイクロカプセルについて、強制流動場におけるクラスター形成様相を特定するため、可視化実験を行った。

学術論文・著書・分担執筆

1. 大高裕矢, 石井慶子*, 麓耕二, 自励振動型ヒートパイプ内部における感温塗料を用いた温度分布および蛍光染料を用いた流動の同時計測, 実験力学, Vol. 22, No. 1, 2022年 3月 In press
2. 石井 慶子*, 大野 淑子, 及川 麻衣子, 大西 典子, 接触・発話を伴う対面時の呼気の可視化, 可視化情報学会論文集, 41(7), 00.21-27. 2021年6月

招待講演

3. 石井慶子, 複雑熱流体现象への可視化計測実験によるアプローチ, 日本伝熱学会中国四国支部&中四国熱科学・工学研究会 秋の特別講演会 2021年11月6日(土)

国際会議プロシーディングス

4. Y. Otaka, K. Ishii, K. Fumoto, The Simultaneous Visualization of Flow and Temperature inside a Pulsating Heat Pipe Using Temperature-sensitive Paint, The 18th International Conference on Flow Dynamics (ICFD2021), Oct, 27 - 29th, 2021.
5. Kazuki OGURA, Keiko ISHII, Koji FUMOTO, Visualization of clusters in fluorescent magnetic microcapsule dispersions under forced convection, Asian Conference on Thermal Sciences (ACTS), #40411, Oct.3-7th 2021.
6. Rikuto SHIMODA, Yuya OTAKA, Koji FUMOTO, Keiko ISHII, Simultaneous

Measurement of Two-Dimensional Temperature Distribution and Flow Inside a Single Channel Simulating Pulsating Heat Pipe, Asian Conference on Thermal Sciences (ACTS), #40413 ,Oct.3-7th 2021.

7. Ishii Keiko, Omata R., Otaka Y., Fumoto K., Measurement of two-dimensional Temperature Distribution and point Pressure inside Pulsating Heat Pipe Using Temperature-sensitive Paint, the Joint 20th International Heat Pipe Conference and 14th International Heat Pipe Symposium, Paper 94, Russia Gelendzhik (Online), 6-10(10) Sep. 2021

国内会議

8. 荻山 貴弘, 石井 慶子, 小方 聡, 仁科 勇太, 麓 耕二 , グラフェンシート懸濁液の熱物性に及ぼす調整過程 の影響, 日本機械学会 関東支部 第28期総会・講演会, 2022年3月14日 (月) ~ 15日 (火), オンライン
9. 一野 瑠偉, 石井 慶子, 麓 耕二 , 低伝熱速度を実現する複合材料の開発 , 日本機械学会 関東支部 第28期総会・講演会, 2022年3月14日 (月) ~ 15日 (火), オンライン
10. 日巻 雅喜, 石井 慶子, 麓 耕二, Self-rewetting 溶液中に生じる気泡微細化現象のメカニズム解明 , 日本機械学会 関東支部 第28期総会・講演会, 2022年3月14日 (月) ~ 15日 (火), オンライン
11. 三股啓一郎, 石井慶子, 麓耕二 , 磁性ナノ粒子を用いた癌の温熱治療法における生体局所加温 特性に関する検討, 第32回 バイオフロンティア講演会, 2022年1月12日 (水) ~13日 (木), オンライン
12. 大貫凌河, 石井慶子, 麓耕二 , ガリウムマイクロカプセルスラリーの調製と対流実験による熱輸送評価 , 第 10 回潜熱工学シンポジウム, G23, 2021年11月29~30日, 神戸
13. 川山昂祐 , 石井慶子, 麓耕二 , 磁性粒子と相変化物質を封入したマイクロカプセルの合成とその観察 , 第 10 回潜熱工学シンポジウム, G24, 2021年11月29~30日, 神戸
14. 佐藤 亮, 石井 慶子, 麓 耕二, 温度差を有する場の感温磁性マイクロカプセル分散液パッシブ流動の可視化, 日本機械学会 第99期 流体工学部門 講演会2021年11月8~10日 オンライン
15. 岡田 健吾, 石井 慶子, 麓 耕二 , 摺動を利用した往復振動流の熱輸送評価 , 日本機械学会 熱工学コンファレンス2021, 2021年10月9~10日 オンライン
16. 山口 史人, 石井 慶子, 麓 耕二, 平板型マイクロ自励振動型ヒートパイプの熱輸送性能に及ぼす冷却条件の影響 , 日本機械学会 熱工学コンファレンス2021, 2021年10月9~10日 オンライン
17. 宮川 滉平, 石井 慶子, 内田 龍貴, 尾畑 聡史, 麓 耕二, 熱交換セクション比率

の変化による扁平自励振動型ヒートパイプの熱輸送特性－凝縮部及び蒸発部面積の場合－，日本機械学会 熱工学コンファレンス2021，2021年10月9～10日 オンライン

18. 小倉 一起，石井 慶子，麓 耕二，蛍光磁性マイクロカプセルが形成するクラスター構造の可視化と強制流動場における流動特性，第49回可視化情報シンポジウム2021年9月9－11日 オンライン
19. 大高 裕矢，石井 慶子，麓 耕二，感温塗料を用いた自励振動型ヒートパイプ内部における熱流動の可視化，第49回可視化情報シンポジウム2021年9月9－11日（ベストプレゼンテーション賞）オンライン

受賞

20. 石井 慶子，2021年9月，可視化情報学会 奨励賞
21. 大高 裕矢，石井 慶子，麓 耕二，2021年9月，第49回可視化情報シンポジウム2021 ベストプレゼンテーション賞

社会活動・学外の委員活動等

22. 2021年 可視化情報学会誌 編集委員

その他

23. 新型コロナウイルスの感染予防に有用な発話対面時の呼気エアロゾル流動の物理を解明，石井慶子，青山学報 276号, 2021summer, pp.57
24. 人の呼気の流動特性を把握して感染症予防をしよう！，石井慶子，メカトップ関東，2021年7月号

竹下 啓

所属：東海大学医学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_5/

研究成果の概要

高齢者も対象となる在宅や施設における医療・ケアは、医師、看護師、薬剤師、介護支援専門員、療法士、介護士等の多施設多職種協働によって提供される。しかしながら、医療・ケアチーム、患者（サービス利用者）本人、家族等の間において、適切な合意形成が困難なことがある。そこで、在宅や施設における倫理的問題を同定し、解決を支援するための研究活動を継続した。また、遺伝医学や医療資源の配分に関する研究も行った。

学術論文・著書・分担執筆等

1. 竹下 啓、堂園俊彦、神谷恵子、長尾式子、三浦靖彦 生命・医療倫理研究会「COVID-19の感染爆発時における人工呼吸器の配分を判断するプロセスについての提言」と米国ニューヨーク州「人工呼吸器配分ガイドライン」生存科学 2021 ; 31 (2) : 51-71
2. 竹下 啓 COVID-19と医療倫理 呼吸器内科 2021 ; 40 (4) : 433-438
3. 鈴木（山崎）みづほ、大貫優子、高橋千果、和泉俊一郎、竹下 啓 日本の医療現場における遺伝子関連情報の取り扱いの実態とその背景-20人の臨床遺伝専門医のインタビュー調査より- 日本遺伝カウンセリング学会誌 2021 ; 42 : 1-13
4. 竹下 啓 リスク低減手術をめぐる倫理的課題 平沢 晃 編集 遺伝子医学別冊 遺伝性腫瘍学入門 遺伝性腫瘍の基礎知識 pp281-286 2022年1月 メディカルドゥ（大阪）

シンポジウム・講演・学会発表

5. 竹下 啓 医師の労働環境と医の倫理 日本眼科学会専門医制度 第73回講習会 2021年4月26日～5月10日（オンライン）
6. 竹下 啓 倫理コンサルテーション総論 第65回日本新生児成育医学会・学術集会 倫理委員会企画プログラム「倫理コンサルテーションを理解しよう」 2021年5月6日（オンライン）
7. 竹下 啓 インフォームド・コンセントの基本知識 第26回日本整形外科学会研修指導者講習会 2021年5月23日（オンライン）
8. 竹下 啓 緩和ケアにおける輸血の臨床倫理 シンポジウム9「緩和医療における

- 輸血療法を考える」 第65回日本緩和医療学会学術大会 2021年6月19日（横浜）
9. 竹下 啓 COVID-19パンデミックにおける「トリアージ」をめぐる日本での議論
日本学術会議哲学委員会いのちと心を考える分科会主催公開シンポジウム「コロナ禍におけるトリアージの問題--世界の事例から日本を考察する」 2021年8月29日（オンライン）
 10. 竹下 啓 「人工呼吸器の配分プロセスの提言」について 国際人権法学会「COVID-19と人権」フォーラム Covid-19の治療における「重症者トリアージ」と患者の権利-「その時」論と人権論 2021年9月19日（オンライン）
 11. 竹下 啓、三浦靖彦、長尾式子、堂園俊彦、神谷恵子 公募ワークショップ01「地域における臨床倫理支援」 第33回日本生命倫理学会年次大会 2021年11月27日（オンライン）
 12. 竹下 啓 東海大学医学部附属病院における臨床倫理コンサルテーションの境界
公募シンポジウム01「臨床倫理コンサルテーションの境界を探る」 第33回日本生命倫理学会年次大会 2021年11月27日（オンライン）
 13. 竹下 啓 臨床試験と倫理指針について 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会 PAP
応用講座 2022年2月19日（京都・オンラインとのハイブリッド）

社会活動・学外の委員活動等

14. 北里大学白金治験審査委員会副委員長
15. 北里大学医学部医の倫理委員会委員
16. 慶應義塾大学医学部倫理委員会委員
17. 慶應義塾臨床研究審査委員会委員
18. 慶應義塾大学病院医師主導治験審査委員会委員
19. 公益財団法人生存科学研究所専務理事
20. 一般財団法人公正研究推進協会評議員
21. 日本臨床倫理学会評議員
22. 日本生命倫理学会評議員
23. 生命・医療倫理研究会副会長
24. 臨床倫理編集委員
25. CBEL Report編集委員
26. 生命倫理編集委員
27. 生存科学編集委員

佐野 智子

所属：城西国際大学福祉総合学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_9/

研究成果の概要

今年度は、日本の難聴者支援の課題と、それを解決するために参考となるオーストラリアのユニークな難聴者支援の取り組みについて論文化した。また、中等度難聴者が自身の難聴をどのように開示する／開示しないのか、およびそのプロセスを質的研究手法である複線経路・等至性モデル（Trajectory Equifinality Model：TEM）を用いて分析し、難聴開示に対する葛藤や開示を促進する要因について検討した。さらに、難聴ケアの重要性を広く一般に周知すべく、オーティコン国際シンポジウムのスピンオフ企画「みんなで話そう難聴のこと」の鼎談に参加し、その動画が配信された。継続的な活動としては、共同研究者である長田久雄教授主宰の「難聴研究会」に参加し、難聴に対する人々の認知や難聴高齢者の心理、および難聴者への支援について、検討・研究を行っている。

学術論文・著書・分担執筆

1. 佐野智子・森田恵子・杉崎きみの（2021）日本における難聴者支援の課題ーオーストラリアの難聴者支援システムの紹介と産官学民連携の重要性. 日本応用老年学：15(1), 86-96.
2. Noriko Katsuya, Tomoko Sano (2021) How do people disclose their mild-to-moderate hearing loss? *Japanese Psychological Research* (doi: 10.1111/jpr.123862021).
3. 佐野智子「感覚・知覚の加齢変化と日常生活への影響」杉澤秀博・長田久雄・渡辺修一郎・中谷陽明（編）（2021）『老年学を学ぶ』（pp.132-142），桜美林大学出版会.

シンポジウム・講演・学会発表

4. 勝谷紀子・佐野智子（2021）「難聴・聞き取り困難者をつなぐ「きこえカフェ」の実践」日本特殊教育学会第59回大会 2021年9月18日～9月20日 オンライン開催.
5. 佐野智子（指定討論）日本心理学会第85回大会 2021年9月1日～9月8日オンライン開催 公募シンポジウム「難聴・聞き取り困難への支援 アフターコロナをみすえて」.

その他

6. 「難聴研究会」実施（2021/5/6, 6/8, 7/20, 8/27, 10/2, 2022/2/28）.
7. オーティコン国際シンポジウム スピンオフ企画「みんなで話そう難聴のこと 前

- 編－難聴と認知症－」(<https://www.oticon.co.jp/event/symposium-spinoff>) 鼎談 2021/9.
8. オーティコン国際シンポジウム スピンオフ企画「みんなで話そう難聴のこと 後編－もしも身近な人が難聴だとわかったら」(<https://www.oticon.co.jp/event/symposium-spinoff>) 鼎談 2021/9.

長田 久雄

所属：桜美林大学大学院老年学研究科・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_10/

研究成果の概要

難聴に対する人々の認知や難聴高齢者の心理、および難聴者への支援について、佐野研究員と共同研究を行っている。また、難聴に関する研究を推進するための研究会「難聴研究会」を主宰し、今年度は6回開催した。また、老年学のテキスト「老年学を学ぶ」の編集委員を務めた。

学術論文・著書・分担執筆

1. 森下久美・渡辺修一郎・長田久雄、シルバー人材センター会員における屋外作業時の疲労対処行動：運動機能と認知機能の類型による比較、日本公衆衛生雑誌、第68巻第8号、564-571、2021.8.15.
2. 田辺毅彦・長田久雄、特別養護老人ホームにおけるユニットケア研修と介護職員のバーンアウトの関連、応用老年学、第15巻1号、48-57、2021.8.31.
3. 小野真由子・藤野秀美・横井郁子・長田久雄、高齢者における「感謝」の研究の文献レビュー、ウェルビーイングおよび精神的健康との関係に着目して、応用老年学、第15巻1号、75-85、2021.8.31.
4. 杉澤秀博・長田久雄・渡辺修一郎・中谷陽明（編）『老年学を学ぶ』桜美林大学出版会、2021.12.10.

シンポジウム・講演・学会発表

5. 日本ホスピス・在宅ケア研究会in熊本シンポジウム「ケアラー支援の重要性」座長
2021年10月16日

社会活動・学外の委員活動等

6. 日本応用老年学会副理事長
7. 日本老年臨床心理学会副理事長
8. 公益財団法人認知症予防財団理事
9. 社会福祉法人清水安三記念福祉会理事長

その他

10. 「難聴研究会」を開催（2021/5/6, 6/8, 7/20, 8/27, 10/2, 2022/2/28）.

平井 誠

所属：神奈川大学人間科学部・教授

経歴等：<https://professor.kanagawa-u.ac.jp/hs/human/prof05.html>

研究成果の概要

日本における高齢人口移動の動向を明らかにするための調査を継続して実施した。令和2年国勢調査の速報値や基本集計結果を用いて高齢人口の分布やその変化に関する基礎的な分析を行った。この成果は、今後公表される人口移動に関する集計を用いた研究に用いる。また、本務校における研究プロジェクトとして、コロナ禍における健康維持に関する研究に参画した。学会活動としては、日本地理学会理事として、高校生ポスターセッションの運営を担った。

学術論文

1. 松本安生・平井誠「コロナ禍における中高齢者の身体活動量に周辺環境が与える影響」人文学研究所報（神奈川大学），66，pp.21-36.

学外の委員活動

2. 日本地理学会 理事
3. 地域地理科学会 理事
4. 地理空間学会 評議員

井上 希

所属：国立社会保障・人口問題研究所・研究員

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_12/

研究成果の概要

2021年度は昨年度に引き続きジェロントロジー研究所のホームページの管理や研究所の紹介動画の管理、老年学に関連する論文執筆・研究発表を実施いたしました。

本年度も世界的なCOVID-19の蔓延に伴い、発表を予定していた国際学会や自治体職員の方々を対象とした講座など、多くの企画で中止となる事態となりました。一方で、オンラインを活用した会議や学会などが前年度から増え続け、実際に本年度参画した学会のほとんどがオンライン開催となっております。

本年度実施した論文執筆は主に日本学術振興会の科学研究費助成事業（科研）の一環のものであり、具体的には、米国の将来人口推計に関する研究です。また、個人研究で行っている市区町村合併の過疎地域への影響についての研究や、共同研究で行っている日本のエネルギー消費についての将来推計の研究についても前年度に引き続き実施しており、来年度も学会発表と論文投稿を実施予定です。

学術論文・著書・分担執筆等

1. 井上希・小池司朗・井上孝, (2021a), 「IPUMS USAの概要」, 『ESTRELA』 (326) 48-51.
2. 井上希・小池司朗・井上孝, (2021b), 「IPUMS CPSの概要」, 『ESTRELA』 (328) 48-51.
3. 井上希・小池司朗・井上孝, (2021c), 「IPUMS Internationalの概要」, 『ESTRELA』 (330) 48-51.
4. Inoue, N., Matsumoto, S., and Mayumi, K., (2021), “Household energy consumption pattern changes in an aging society: the case of Japan between 1989 and 2014 in retrospect,” *International Journal of Economic Policy Studies* (15) 1-17.
5. 井上希・小池司朗・井上孝, (2021d), 「IPUMS-GLOBAL HEALTH (DHS) の概要」, 『ESTRELA』 (332) 48-51.
6. 井上希・小池司朗・井上孝, (2021e), 「IPUMS-GLOBAL HEALTH (PMA) の概要」, 『ESTRELA』 (334) 44-47.

シンポジウム・講演・学会発表等

7. Inoue, T., and Inoue, N., (2021), “An Evaluation of the Risk of Becoming Uninhabited at the

Small Area Scale by Logit Models: Using Projected Population of Japan,” Population Association of America 2021 Annual Meeting (6/MAY/2021).

8. 井上希, (2021), 「小地域データを用いた市町村合併による過疎地域への影響の検証」,第73回日本人口学会 2021年6月6日.
9. Inoue, T., and Inoue, N., (2021), “Future Prospects of Population Aging in Japan: A Cluster Analysis Using Small Area Population Projection Data,” 34th International Geographical Congress (8/JUN/2021).
10. 井上希, (2021), 「地域人口の構造」, 立教大学社会学部講義「社会人口学」2021年11月19日.
11. 井上希・井上孝, (2021), 「東京西郊の私鉄沿線における駅勢圏別人口変動—2015～2065年を対象に—」, 2021年度第1回日本人口学会東日本地域部会 2021年12月5日

受賞等

12. 2021年9月 環境経済・政策学会 論壇賞(Carbon Pricing in Japan)

主な社会活動・学外の委員活動等

13. 日本人口学会 大会企画委員会 幹事
14. 日本人口学会 選挙管理委員会 委員
15. 第11回人口地理学国際会議組織委員会 委員

朝倉 匠子

所属：青山学院大学ジェロントロジー研究所・客員研究員

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_13/

研究成果の概要

コロナをきっかけに2021年の5月にオンラインサロン「朝倉匠子のエイジング研究所」をスタートさせた。会員は約100人、女性限定で中心が50代、60代。サロンの交流会や発表会などでZoomに参加したり、アーカイブを見たりとサロンを楽しむには基本的なITの理解が必要だ。結果「私は苦手」と敬遠する人も多い。反面、女性で高齢にも関わらず、サロンに参加して、ITを生活の中に取り入れることに積極的な人もいる。彼女らは押し並べてコミュニケーション能力や生活改善能力がとても高い。コロナ禍でもクリエイティブに生きている。また彼女らの親の世代（80代、90代）もFBやインスタに参加し、自分を発信している人が多いのには驚く。高齢者がITを学ぶことは孤独に陥りやすい今後を大きく変える可能性がある。人間は幾つになっても時代の変化を取り入れる「学びの姿勢」は大切だ。我がサロン、数少ない50代以降の女性専用オンラインサロンとしてさらなる質の向上と量の拡大を目指したい。

集英社デジタル雑誌 Our Age 「キラキラの源」連載執筆

1. 乳がん再発防止のために5年間飲み続けたホルモン抑制薬が終了に！断薬後の自分が楽しみです。1月17日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/233372/>
2. なんとイラストレーター松下進さんがフジヤマシスターズの似顔絵を描いてくださいました。2月7日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/235869/>
3. いま話題のSNS「Clubhouse（クラブハウス）」のトークイベントにスピーカーとして参加しました！3月9日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/239082/>
4. ジャズシンガー・マリーンと世界的ギタリスト Jiro YOSHIDA が動画に参加！「朝倉匠子のエイジング研究所」4/26 からスタートです！3月20日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/240333/>
5. 朝倉匠子、65歳の挑戦です。オンラインサロン開設に向けて、まずは動画7本作りました。4月1日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/241929/>
6. 本日4/10から「朝倉匠子のエイジング研究所」の申し込み受付を開始します！5月16日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/245942/>
7. 「朝倉匠子のエイジング研究所」オープニングイベントは参加者150人以上の大盛況に！4月10日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/243171/>
8. 新型コロナウイルスワクチンの1回目を接種。予約、接種日の様子、その後の状況をご報告

- します。6月10日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/248475/>
9. コロナワクチン接種 2 回目、何も起こらず無事終了しました！6月25日。
<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/249743/>
 10. ワクチン 2 回接種の 2 週間後、抗体ができたかどうか検査しました。7月23日。
<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/252211/>
 11. アメリカ在住の息子の日常から感じる「コロナと共生する社会」とは？8月6日。
<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/254602/>
 12. コロナワクチン接種済み、米国ノマド生活の息子、音楽フェスの後は元家庭教師に
会いにミルウォーキーへ。8月31日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/255606/>
 13. 自然写真家・高砂淳二さんの写真と講演に刺激され、マイボトル、びわこ布巾はじ
めました。9月9日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/257110/>
 14. フジヤマ シスターズ、縁あって伝説の作詞作曲家のすすめで少年隊の『まいったネ
今夜』を歌いました！11月14日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/262968/>
 15. 11/28（日）に何度も延期となった『日本橋三越カルチャーサロン講演会』をついに
開催します！11月19日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/264625/>
 16. フジヤマシスターズのミュージックビデオ制作のために、クラウドファンディング
に挑戦します！12月24日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/269163/>

講演

17. 日本橋三越カルチャーサロン講演「朝倉流健康的に美しく年を重ねる極意」2021年
11月28日。

大西 典子

所属：山野美容芸術短期大学・教授

経歴等：<https://www.yamano.ac.jp/study/teacher/detail.php?t=onishi-noriko>

研究成果の概要

山野学苑では、超高齢社会の社会課題解決に貢献する人材育成教育として美齢学・美容福祉学を構築している。特に美齢学・美容福祉学がジェロントロジーの一端を成すということから、これらの社会還元の形の開発、そのための科学的根拠あるいは実践評価に係る研究の推進、そしてさらに実践から得られた知見を教育に取り入れるという、実践と研究と教育の適切な循環のしくみ創りとその見直しが求められる。しかし2020年に続いて2021年も新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年に得られた美容事業における感染予防対策の研究成果を2021年は啓発活動につなげることを重点的に行った。また、この新たな社会的な危機に美容が貢献できることを他領域の人たちに周知する講演会等も行った。

シンポジウム・講演・学会発表等

1. 「地域共生社会と美容福祉」第10回認知症予防学会学術集会 シンポジウム11 東京都支部主催シンポジウム2021年6月25日
2. 「美齢講座⑨ ハッピーエンディングー美しく生きるとはー」八王子学園都市大学いちょう塾2021年7月10日
3. 「コロナ禍の今だからこそ、美容で身体的・心理的にアプローチ」高齢者住宅新聞社オンラインセミナー「自分らしくいきいきと暮らせる施設が選ばれる！付加価値を高める美容サービスとは」2021年7月16日
4. 「地域の在宅医療・ケア提供者に知ってほしい美容福祉のこと」第43回神奈川臨床倫理カンファレンス 2021年8月24日
司会：東海大学医学部基盤診療学系医療倫理学 竹下啓
5. 「美容施術にあたっての呼気可視化と対策」コロナ禍における美容福祉事業の実際と感染予防対策～ケーススタディを通して考える～NPO全国介護美容福祉協会 第14回登録美容師の集いオンラインセミナー 基調講演 2021年8月31日（NEWSLETTER 12号 NPO全国介護美容福祉協会p.3-5 2021年10月1日）
6. 日本美容福祉学会第20回学術集会 「人生100年時代の地域共生社会における美容福祉の可能性」シンポジウム「美容のヘルスケアサービスに係る効果と課題」座長 2021年11月9日
7. 「美齢講座⑩ハッピーエンディングー美しく生きるとはー」八王子学園都市大学

いちよう塾 2021年12月18日

分担執筆

8. 2021年度 介護福祉士 全国統一模擬試験 中央法規出版
9. 介護福祉士国家試験過去問題解説集 2022 中央法規出版

社会活動・学外の委員活動等

10. 一般社団法人日本美容福祉学会 理事
11. NPO全国介護理美容福祉協会 監査
12. 社会福祉法人多摩養育園 苦情解決第三者委員
13. はちおうじ人生100年サポート企業協議体にて連携事業の推進

及川 麻衣子

所属：山野美容芸術短期大学・准教授

経歴等：<https://www.yamano.ac.jp/study/teacher/detail.php?t=oikawa-maiko>

研究成果の概要

2020年度より、ICTを活用した世代間交流で、高齢者や地域の課題発見・解決を目指しコロナ禍における教育研究として推進してきた。2021年度は、行政、自治体の方にもご協力いただき規模を拡大し継続できた。対面での美容施術が困難な中、オンラインでのコミュニケーションを通し、外出困難な高齢者の悩みを伺いながら課題発見と解決が可能であるか、交流の事前事後にアンケートとインタビュー調査を行った。参加した高齢者は新しいことに挑戦する機会となり、またICT機器を使用する動機付けにもつながっていた。また、他大学との共同研究によりICTを活用した新たな教育プログラムの開発を行った。これらの成果を学会において報告した。

講演・学会発表・公開講座等

1. 三田薫，及川麻衣子ICTを活用した異世代活動の成果と課題 第37回日本教育情報学会2021年8月28日オンライン開催
2. 三田薫，及川麻衣子，桑原静高齢者支援事業を目指した、ICT活用による世代を超えた交流活動の施行2021年度私立大学情報教育協会短期大学教育改革ICT戦略会議 2021年9月9日アルカディア市ヶ谷 東京
3. 及川麻衣子，三田薫超高齢社会におけるICTを活用したコミュニケーションに関する研究—コロナ禍の異世代交流活動の成果と課題— 第20回日本美容福祉学会 2021年11月9日オンライン開催
4. 及川麻衣子人生100年時代の「美」のストーリーワークショップ 2021年8月23日徳島県美馬市オンライン開催
5. 及川麻衣子「対象者のニーズに合う化粧品の選択と化粧方法」国際化粧療法協会化粧療法研修会WEB研修会 2021年6月12日
6. 及川麻衣子美齢講座⑥エイジングヘアケア 八王子学園都市大学いちょう塾後期 2021年11月20日
7. 及川麻衣子化粧療法の化粧知識と技術1（全4回）国際化粧療法協会化粧療法研修会WEB研修会2021年12月4日，11日，18日，25日
8. 及川麻衣子100歳時代のジェロントロジー総合講座（美容）2021年3月12日静岡
9. 山下玲子，及川麻衣子，川津孝代「美容福祉事業推進のためのケーススタディ」全国介護美容福祉協会第14回登録理美容師の集い2021年8月31日 NEWS

LETTER第12号2021.

10. 及川麻衣子化粧療法の化粧知識と技術 2 (全4回) 国際化粧療法協会化粧療法研修会WEB研修会2021年3月5日, 12日, 19日, 26日

社会活動・学外の委員活動等

11. 「受刑者の出所前教育インプレッション指導」立川拘置所2021年8月2日, 12月10日
12. 全国介護美容福祉協会 理事
13. 日本美容福祉学会 理事
14. 日本化粧医療学会 代議員

五十嵐 靖博

所属：山野美容芸術短期大学・教授

経歴等：<https://www.yamano.ac.jp/study/teacher/detail.php?t=igarashi-yasuhiro>

研究成果の概要

心理学のメタ学問である理論心理学と批判心理学の立場から、ディスコース分析の研究
方法論に依拠して日本社会に代表される超高齢化社会における個人の主観性などの心的
現象と社会や文化、政治経済などの外的諸条件の関係を探究した。こうした研究実践
を通して心理学と社会の関係や、心を専門的に研究する学問である心理学の存在論や認
識論を検討し、新たな心理学実践のあり方を考察した。2021年度は特に19世紀後半から
西洋化や近代化を目指すプロジェクトとして西洋から導入された「現代心理学」が、今
日の日本社会においてどのような位置にあるか、そこで生きる人々に何をもたらしてい
るかを広く国際的心理学ワールドに向けて発信した。

学術論文

1. 五十嵐靖博 (2021). 「第5章 批判心理学からみた社会構成主義：理論心理学的アプ
ローチとディスコース分析，リフレキシビティ」, pp.101-126. 能智正博・大橋靖史
編 『ソーシャル・コンストラクショニズムと対人支援の現場：理論から実践へ』

シンポジウム・講演・学会発表

2. Igarashi, Y. (2021). 'Despite not being Difficult-to-Return Zones, zones in which evacuation
orders continue even now': discourse analysis of the first-person experience of affectivity
after the Fukushima nuclear accident. The 14th Biennial Conference of the Asian Association
of Social Psychology.
3. Igarashi, Y. (2021). The history of theoretical psychology in Japan: An exploration of 'the
foundational issues' of psychology. The 32nd International Congress of Psychology.
4. Igarashi, Y. (2021). Discourse analysis of Fukushima nuclear disaster: Disparity of power and
construction of realities. The 32nd International Congress of Psychology.
5. Igarashi, Y. (2021). Possibility of late effects of radiation and discourse analysis :lessons from
Fukushima nuclear disaster. The 12th Biennial Conference of International Society for
Critical Health Psychology.
6. Igarashi, Y. (2021). What is critical psychology? : a Japanese view from the stand point of
theoretical psychology. パジャジャラン大学 (Padjajaran University, インドネシア) 心
理学科が企画した国際シンポジウムにおける招待講演

社会活動・学外の委員活動等

7. (公社) 日本心理学会 批判心理学研究会代表 2010～
8. International Society of Critical Health Psychology 運営委員 2011～2021
9. Awry: Journal of Critical Psychology (AJCP) 編集委員 2019～
10. Frontiers in Psychology 部門編集委員 2019～
11. 2020 Critical Psychology Conference in East Asia 組織委員会委員長
12. 2020 The Psychology of Global Crises Conference 実行委員

大野 淑子

所属：山野美容芸術短期大学・教授

経歴等：<https://www.yamano.ac.jp/study/teacher/detail.php?t=ohno-yoshiko>

研究成果の概要

杉並区の訪問美容の現場において、万全のコロナ感染防止対策をしながら美容福祉師が奔走している。コロナ禍で在宅高齢者への新規訪問美容の依頼は増え、介護施設においても、外部からの訪問が閉ざされ家族でさえ入ることができない状況の中、命を守るために医療、介護と同様に、訪問美容が必要とされる例もある。そのような緊迫した現場で、訪問美容が求められる理由について調査し現状を明らかにした。また、神楽坂の元気高齢者向けに複数の美容講座の実施を試みたが、コロナ禍での参加者の確保が難しくアフターコロナでの実施に向けて検討を進めた。

シンポジウム・講演・学会発表・社会活動等

1. 大野淑子、佐野美恵子 日本美容福祉学会「コロナ禍における訪問理美容サービスの現状と展望～訪問健美美容・すぎなみの事例より～」2021年11月9日
2. コンソーシアム八王子夏休み子供いちょう塾「組み紐教室」2021年7月18日
3. シニア元気塾ボランティア講座「美容福祉・おしゃれでいきいきシニアファッション」2021年10月16日
4. 東京都立特別支援学校「身だしなみ講座」2022年2月22日

永松 俊哉

所属：山野美容芸術短期大学・教授

経歴等：<https://www.yamano.ac.jp/study/teacher/detail.php?t=nagamatsu-toshiya>

研究成果の概要

適度な運動を継続することは、身体のみならず心の健康に繋がる。これまで身体運動を活用した健康増進に関する研究に取り組んできた。特に、高齢者の健康づくりを狙いとして、日常生活の中で実施・継続可能な低～中強度の運動（レジスタンストレーニング・ストレッチング）の効用について検討した。コロナ禍においてはフィールドワークに代わり文献ワークを実施した。

著書

1. 学生のための健康管理学－改訂3版－（2021）

講演

2. 美齢講座「美しい歩き方を学んで体力アップ」八王子市いちよう塾講演（2021）
3. コロナと日常－どうやって健康を保つ？－ 東京都体育協会講演（2021）

社会活動・学外の委員活動等

4. 日本体力医学会評議員
5. 杏林大学大学院国際協力研究科研究倫理審査委員会 委員
6. 公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団倫理審査委員会 委員
7. 特定非営利法人 羽村市体育協会 理事
8. 公益社団法人 日本エアロビック連盟 理事
9. 公益財団法人 明治安田厚生事業団 理事